

第 30 回 新木地区「地域会議」議事録

■開催日時： 令和 7 年 10 月 26 日(日) 10:00～12:00

■開催場所： 新木近隣センター 多目的ホール

■出席者： (紙面の都合により割愛)

■議題： 安全・安心・住みよいまちづくりに向けて

第 1 部：子ども支援について

第 2 部：地域会議 30 回の思い出

■開会挨拶

＜地域会議事務局：事務局長＞

- 雨天の中の参加への謝辞
- この 10 年間で地域のコミュニケーションが活発になり、挨拶が自然に交わせる環境が整ってきた
- 今回は教育委員会からの周知と、第 30 回を記念した自由な意見交換の場としたい

■来賓挨拶

＜我孫子市：市民協働推進課長＞

- 10 年前に地域会議の基本方針を策定
- 地域のつながりは積み重ねが重要であり、30 回を迎えたことは大きな意義がある
- 今後も地域のつながりを大切にしていきたい

■コミュニティ・スクールの紹介

※我孫子市教育委員会よりスライド共に説明

■議事：1 班

1. 新木小学校と地域の連携（現状の取り組み）

学校と地域が協力して、以下のような活動が行われています。

- 広報協力：各自治会による学校だよりの配布。
- 体験学習：地域の農地を借りた野菜作り（5 年生）や、敷地内での米作りへの協力。収穫した農作物の販売も実施。
- 地域理解：地域住民の協力による「まち探検」の実施。
- キャリア教育：専門職（看護師、自転車屋など）の話を聞く機会を検討中。

2. 外国籍児童への支援に関する課題

外国籍の児童（スリランカ、ネパールなど）が増加しており、喫緊の課題となっています。

- 現状：現在 7 名の外国籍児童が在籍（2?4 年生に多い）。日本語指導の専門職員が不在で、週 2 回のボランティアが対応している。
- 学習の壁：計算はできるが、算数の文章問題が理解できないといった言語の壁がある。

- 学校の対応：現在は翻訳機や絵カードを用いて対応している。
- 地域からの提案：
 - ボランティアの募集。
 - 英語がわかる地域住民（まち協メンバー等）による学習支援。
 - 湖北小学校での先例（外国籍児童への対応事例）を参考にすること。

3. 放課後の学習・居場所づくり

子どもたちが安心して過ごし、学べる場所の確保について議論されました。

- 既存の活動：
 - 学習支援教室：分からないところを教える場。
 - つくばね会などの学習室：湖北小のように図書室を借りた放課後支援。
 - まち協の勉強会：毎週日曜日に英語と算数を指導。
- 課題と要望：
 - 「放課後学習室」に対する学校側のさらなる理解と、外部組織の積極的な活用を求める声あり。
 - 近隣センターは学校に近く利便性が高いため、活用が期待される。
 - 居場所のない子どもたちが、地域のお年寄りと交流できるような場の必要性。
- 安全・ルール：
 - 下校時の交通マナー（広がって歩く等）や挨拶の減少が懸念されている。
 - 放課後に児童だけで校庭や教室に居残ることはできず、学童保育に所属する必要がある。

4. 我孫子特別支援学校との連携

- コミュニティスクールとして2年目を迎え、地域住民による「昔遊び」の授業などを実施。
- 新木小学校との連携による学校探検や、行事の際の駐車場貸し借りなど、相互協力が行われている。
- ダンス活動などを積極的に実施しており、県立学校の存在も地域に理解してほしいとの要望がある。

■ 議事：2班

1. 郷土芸能の継承活動

- 古戸地区の郷土芸能を継承するための部活動を実施
- 今年で2年目

2. 放課後学習室の運営

- 図書室で実施
- 常時約30名が参加
- 宿題の援助や音読支援を行っている

3. 学校授業への協力

- 家庭科授業での支援
- 裁縫指導
- ミシン掛けの指導

4. キャリア学習の支援

- 地域人材による協力・講話などを実施

5. 野菜栽培の指導

- 農家の協力を得て、児童への栽培指導を実施

6. 登下校の見守り活動

- 地域住民による安全確保のための見守りを継続

■ 議事：3 班

1. 子供支援について

- 湖北中学校の現状と地域連携（生徒数：378 名）
チーム担任制を導入（2 週間ごとに担任交代、保護者相談用の窓口担任あり）
制服登校日を月 2 回設定、その他はジャージ登校可
来年度より新制服を予定
- 地域との取り組み
図書・書道・着付け等のボランティア
地域学習会、地域行事（福祉まつり・文化祭・あわんどり等）への参加
図書室の地域開放への意欲（防犯面が課題）
- 今後の課題・要望
職場体験・キャリア教育への地域協力（講話や少人数の対話形式など）
図書室や給食の地域開放の可能性
運営委員改選に向けた協力依頼
- 意見交換（主な意見）
安全面を理由に可能性を狭めすぎず、できることを検討すべき
「子ども 110 番」や挨拶活動の継続
学校情報の回覧板等での共有
防災分野での学校と地域の連携強化

2. 地域会議 30 回の思い出・今後の展望

- 地域会議は「困りごとを話せる場」として意義がある
- 災害時の LINE 連絡網が有効だった事例共有
- 子どもと高齢者の世代間交流（祭り、昔遊び、囲碁・将棋など）の重要性
- 学校と地域が連携し、子どもの成長を見守ることの喜び
- 小中高・地域が一体となった継続的な教育・交流の必要性
- 高齢者が地域で生きがいを持って過ごす視点も重要

■ まとめ・閉会挨拶

<事務局長>

地域会議は 4 か月に 1 度の開催だが、堅くなりすぎず、対話を大切にしてきた
災害対策は引き続き重要なテーマ
今後も楽しく、実のある会議を続けていきたい

■ 次回開催予定：令和 8 年 2 月 22 日（日）10:00～12:00